

令和6年度国際かんがい排水委員会等活動支援委託事業 概要

1. 業務の目的

本事業では、我が国と類似した気象条件や農業体系を持つアジアモンスーン地域の国・地域と連携しつつ、かんがい排水に関する世界最大の国際的ネットワークを有する国際かんがい排水委員会（ICID）での活動や、水田農業を実施する 17 の国々及び3つの国際機関から構成されるネットワークである国際水田・水環境ネットワーク（INWEPF）での活動を通じて、我が国の特性を考慮した水の利用効率改善の在り方を国際社会に発信し、理解の醸成を図るとともに、諸外国の水利用効率の考え方や技術を必要に応じて日本国内に情報提供することを目的とする。

2. 業務の概要

(1) ICID 活動のための支援

1) ICID 国際執行理事会（IEC）及び総会に関する活動支援

オーストラリア・シドニーにおいて、令和6年9月1日（水）～7日（水）に開催された ICID 第9回アジア地域会議及び第75回国際執行理事会（IEC）に参加し、会議に関する発表資料の作成支援、会議概要の取りまとめ、配布資料及び発表資料の収集、ICID 日本国内委員等との連絡調整、ICID 日本国内委員が IEC 等に参加するための参加登録、航空券手配、旅費等の支弁を行った。



結果概要

- ・ 渡邊副会長及びモロッコ・イランの副会長が退任し（任期3年、総数9名）、同ポストに3名が立候補し、Mr. Mohd. Bouaam（モロッコ）、Dato' Ir Mohd Azmi Bin Ismail（マレーシア）、Dr. Gaforzoda Bakhrom Abdulfiz（タジキスタン）の順に順位が決定された。
- ・ 世界かんがい施設遺産について、日本から申請された南原穴堰（宮城県大崎市）、龍ヶ池揚水機場（滋賀県豊郷町）、西光寺野疏水路（兵庫県姫路市ほか）が認定され、地元関係者等に登録証が授与された。
- ・ 総会における国際シンポジウム等において日本国内委員及び若手技術者がプレゼンテーションを行った。
- ・ 日本国内委員会（日本 ICID 協会）からの特別支出 5,000 \$ に謝意が表明された。
- ・ ICID 本部の新たな事務局長が任命された。

2) ICID 日本国内委員会会合活動支援

令和6年8月5日及び11月13日に開催されたICID 日本国内委員会会合（以下「ICID 国内会合」という。）に参加し、資料の取りまとめ、印刷及び配布、会場設営、会議の司会、進行及び議事録の作成、ICID 日本国内委員が会合に参加するための旅費、謝金等の支弁を行った。

第2回委員会（令和6年8月5日）の結果概要

- ・オーストラリア・シドニーで開催予定の第9回アジア地域会議・第75回国際執行理事会（IEC）の対処方針案について、8月28日の食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会での審議に先立ち、事務局から説明が行われ、委員会として了承した。
- ・第75回IECにおける各作業部会等の対処方針案が担当委員より説明され、了承された。
- ・世界水フォーラム（WWF10）の参加報告、INWEPF運営会議、及び国際排水ワークショップの参加報告が行われた。

第3回委員会（令和6年11月13日）の結果概要

- ・オーストラリア・シドニーで開催された第9回アジア地域会議・第75回国際執行理事会（IEC）の結果報告が行われるとともに、食料・農業・農村政策審議会農業農村振興整備部会への報告案について、今後の修正は委員長に一任することで、委員会として了承した。
- ・作業部会等の再編に伴う委員配属の変更について事務局より説明され、意見交換が行われた。今後、国内委員からの意見を踏まえた配属案を作成していくこととなった。
- ・世界かんがい施設遺産の取組状況について、来年の進め方、スケジュールが了承された。

3) ICID日本国内委員会世界かんがい施設遺産分科会会合活動支援

令和7年3月14日に開催されたICID日本国内委員会世界かんがい施設遺産分科会会合（以下「ICID 分科会会合」という）に参加し、会議の司会、進行及び議事録の作成、ICID 日本国内委員が会合に参加するための旅費、謝金等の支弁を行った。

結果概要

- ・令和7年度世界かんがい施設遺産への申請があった国内候補2件（熊本県「湯の口ため池」及び大分県「竹田のかんがい用水群」）について、申請内容を審議した結果、申請書を一部修正の上で、委員会としてICID本部へ申請することが了承された。
- ・審査の方針に係る事務局案について意見交換を行った。

4) IEC等帰国報告会

令和7年3月7日にIEC等帰国報告会を開催し、会議の司会、進行、ICID 日本国内委員が会合に参加するための旅費、謝金等の支弁を行った。



(2) INWEPF 活動のための支援

1) 第19回INWEPF運営会議及びシンポジウムに関する活動支援

令和6年12月12日～14日にタイ・パタヤにて開催された第19回INWEPF 運営会議及びシンポジウム（以下「運営会議等」という。）に参加し、発表資料の作成支援及び取りまとめ、第3ワーキンググループ会議の運営支援、第1及び第2ワーキンググループへの参加、運営会議等の結果概要の取りまとめ、国内関係者が運営会議等に参加するための航空券の手配、旅費等の支弁等を行った。



2) INWEPF タスクフォース会議活動支援

令和6年8月29日～30日にタイ・パタヤにて開催されたINWEPF タスクフォース会議（以下「TF 会議」という。）に参加し、関係国への参加要請、旅費の支弁、TF 会議の運営支援、INWEPF第7フェーズ戦略案の検討、結果概要の取りまとめ等を行った。



3) INWEPF 関連会議活動支援

令和6年10月28日～30日に中華人民共和国成都において開催された日中政策対話、土地改良交流技術セミナーに参加し、発表資料の作成支援及び取りまとめ、会議等の結果概要の取りまとめ、国内関係者が運営会議等に参加するための航空券の手配、旅費等の支弁等を行った。



4) 水田農業における水利用効率の評価手法に関する検討会の運営等

令和6年4月23日、11月12日及び令和7年3月10日に開催された水田農業における水利用効率の評価手法に関する検討会（以下「検討会」という。）に参加し、会場の設営、会議の運営支援、国内関係者が検討会に参加するための旅費・謝金の支弁、発表資料作成に伴う資料収集、取りまとめ等を行った。

5) 第10回世界水フォーラムに関する活動支援

令和6年5月18日～24日にインドネシア・バリにて開催された第10回世界水フォーラム（以下「フォーラム」という）に参加し、会議に関する発表資料の作成支援、会議概要の取りまとめ、配布資料及び発表資料の収集、国内関係者との連絡調整、国内関係者がフォーラムに参加するための参加登録、航空券手配、旅費の支弁等を行った。

結果概要

- ・ テーマ別セッションのサブテーマ T1 トピック A (Sound water supply and demand management) の第 2 セッションとして、INWEPF 日本と UNESCO が「Nature-based Solution / ecosystem protection and restoration to improve water supply」(T1A2) を共同で開催し、松下教授、乃田准教授等が発表を行った。本セッションでは、グレーインフラ（ダム等の従来のインフラ）とグリーンインフラとの連携の重要性が指摘され、24 日のサブテーマ 1 (T1) の統合セッションにおいても、本セッションを含むトピック A の全体報告において言及された。
- ・ サブテーマ T1 トピック C (Water for food and agriculture) の第 3 セッション「Revitalization of existing irrigated areas to be water-wise and climate smart」(T1C3) において、日本における ICT 水管理等の取り組み事例を発表した。また、24 日の T1 統合セッションにおいても、トピック C の全体報告において本発表が紹介された。
- ・ WWF10 のサイドイベントとして INWEPF の WG2 及び WG3 による合同ワークショップを開催し、日本からいくつかの発表を行った。
- ・ 韓国パビリオン内で開催された INWEPF ワーキンググループ 2 (WG2) のワークショップにおいて、日本における ICT 水管理の取組みについて発表した。
- ・ ICID 主催のスペシャルイベント (SS13: Water, Food, Energy Nexus Using Smart Technology) に参加した。
- ・ 日本パビリオン内に設置された農村振興局ブースにおいて、INWEPF、ICID 等に関する情報発信を行った。

